

第11回市畜産共進会を開催
乳用牛・肉用牛を比較品評

第11回市畜産共進会は7月7日、なかやま荘隣の市畜産共進会場で行われました。

この共進会は、市内の優良な乳用牛および肉用牛を一堂に集め、その展示と評価を行い、家畜の増殖と飼養管理技術の改善を図ることを目的に開催されています。29年度は、ホルスタイン種40頭、黒毛和種90頭の計130頭が出品されました。

審査では、出品牛の体高、胸囲、腰回り、肉のつき具合、乳器の状態などを採点しました。

各部門の名誉賞や金賞は、下記のとおりです(敬称および名号は省略)。



ホルスタイン種未経産牛の評価風景

ジャツジングコンテストでは、来場者が参加し真剣に審査

●第11回市畜産共進会結果

◆名誉賞

■ホルスタイン種▼第1部〜4部【未経産牛】Ⅱ渡辺渡(大更)▼第5部〜6部【経産牛】Ⅱ盛岡農業高(滝沢市)

■黒毛和種▼第7部〜9部【未経産牛】Ⅱ佐々木誠造(松尾)▼第10部〜11部【経産牛】Ⅱ伊藤春男(寺田)

◆金賞

■ホルスタイン種▼ベビーⅡ盛岡農業高▼第1部Ⅱ盛岡農業高▼第2部Ⅱ渡辺渡▼第3部Ⅱ工藤大地(松尾)▼第4部Ⅱ渡辺渡▼第5部Ⅱ田村勝(寺田)▼第6部Ⅱ盛岡農業高

■黒毛和種▼第7部Ⅱ佐々木誠造▼第8部Ⅱ佐々木秀秋(大更)▼第9部Ⅱ本堂清寿(寺田)▼第10部Ⅱ伊藤春男▼第11部Ⅱ鈴木圭一(大更)▼第12部Ⅱ遠藤萬治(寺田)、工藤ヨシ子(寺田)、伊藤吉範(寺田)、伊藤春男

◆ベストアダー
▼第5部Ⅱ田村勝▼第6部Ⅱ盛岡農業高

◆ベストプロダクション
▼第6部Ⅱ木村秀人(松尾)

地域おこし協力隊
新たに古屋亮輔さんが加わりました

市は7月3日、新たに地域おこし協力隊員として、古屋亮輔さん(27)に辞令を交付しました。



ふるや りょうすけ
古屋 亮輔 さん

古屋さんは以前、神奈川県内の計測・制御機器メーカーに勤務。辞令交付式では「サービスタクティク高年齢者向け住宅、オークフィールド八幡平」で農場運営や、入居者と地域住民との橋渡し役として活動したい。農業と福祉のどちらも未知の分野ですが、地域の皆さんに教えてもらい、一から取り組みたい」と抱負を述べました。



家族に囲まれ、100歳のお祝いを楽しんで喜ぶフミさん

高橋 フミ さん

大正6年7月18日生まれ =北寄木=

高橋フミさんの長寿祝い金贈呈式は7月18日、特別養護老人ホーム富士見荘で行われ、家族や同施設の利用者など約20人が参加し、長寿を祝いました。フミさんは八幡平市(旧松尾村)出身で、小・中学校で教諭を務め、退職後は自宅で和裁・洋裁教室を開いて生徒に裁縫を教えながら、村助役を務めた夫を支えました。長男の征朗さんは「婦人団体連絡協議会長や民生児童委員を長年務め、家に引きこもらずに率先して外に出て地域の活動をしていました」とフミさんの長寿の秘訣を話してくれました。

農地の保全と有効利用につなげるため
農地パトロール(遊休農地の状況把握)実施

農地パトロール出発式は7月14日、市役所多目的ホール棟で行われ、農業委員や関係者ら約30人が出席しました。式で田村市長は「耕作放棄地の復旧や有効活用のため、暑中ですが、現地の状況把握に努めていただきたい」と激励しました。出発式終了後は、西根南・北、松尾、安代の4地区調査会に分かれ、遊休農地の状況などを把握するため



の農地パトロールのほか、農地の貸し借りについての相談会、啓発活動のためのチラシ配布を行いました。農地パトロールは、県農業会議が「農地の日」に設定した7月15日をめどに、毎年実施しています。

田村市長から激励を受ける農業委員



農協前でチラシを配布



調査に向かう農地を図面で確認

子育て環境のさらなる充実
大更保育園増改修安全祈願

大更保育園増改修工事地鎮祭は7月6日、保育園や工事関係者ら約30人が参加し、工事の安全を祈りました。同工事により、内壁や水道、暖房設備などを改修。増築により、保育室やテラスなどが設けられます。

同園を運営する社会福祉法人杉の子会の遠藤一子理事長は「環境整備し、安心して子どもを預けられる施設にしたい。また、0歳児の受け入れも目指していきたい」と力強く語りました。

完成は12月下旬で、来年1月からの利用開始を予定しています。



工事の安全を祈願 職入れを行う遠藤理事長

欧州の鉢物『安代りんどう』事業は順調
海外2社が試験圃場を視察し意見交換

昨年の9月に鉢物リンドウ栽培ライセンシング契約を締結した海外2社などの3人が7月22日から26日までの5日間の日程で本市を訪れ、鉢物生産者の圃場などを視察しました。訪れたのは、グリーンハーベストパシフィック(ニュージールランド)のライアル・フィールズ社長、マールキユリアス(オランダ)で生産販売部門を担当するロン・フーゲンさん、ニュージールランドのリンドウ生産農家のジョン・モファットさん。一行は25日、市役所を表敬訪問し、



市役所を表敬訪問し、海外での安代りんどうの今後の展開について意見を交わしました



リンドウの試験圃場を訪れる(左から)花き研究開発センターの日影孝志所長、ジョン・モファットさん、ロン・フーゲンさん、ライアル・フィールズ社長

田村市長、岡田副市長らと対談。ヨーロッパにおける鉢物リンドウ生産販売計画が順調であることや、現在の生育状況などを説明しました。フーゲンさんは「今後段階を踏みながら生産者を増やしたい。ヨーロッパの人々の需要にあった新しい品種を増やして、今後の発展に向けて努力したい」と意気込みました。田村市長は「海外で『安代りんどう』の販売が増えることは、新しい品種の開発や、リンドウ生産者の発展にもつながる」と期待しました。